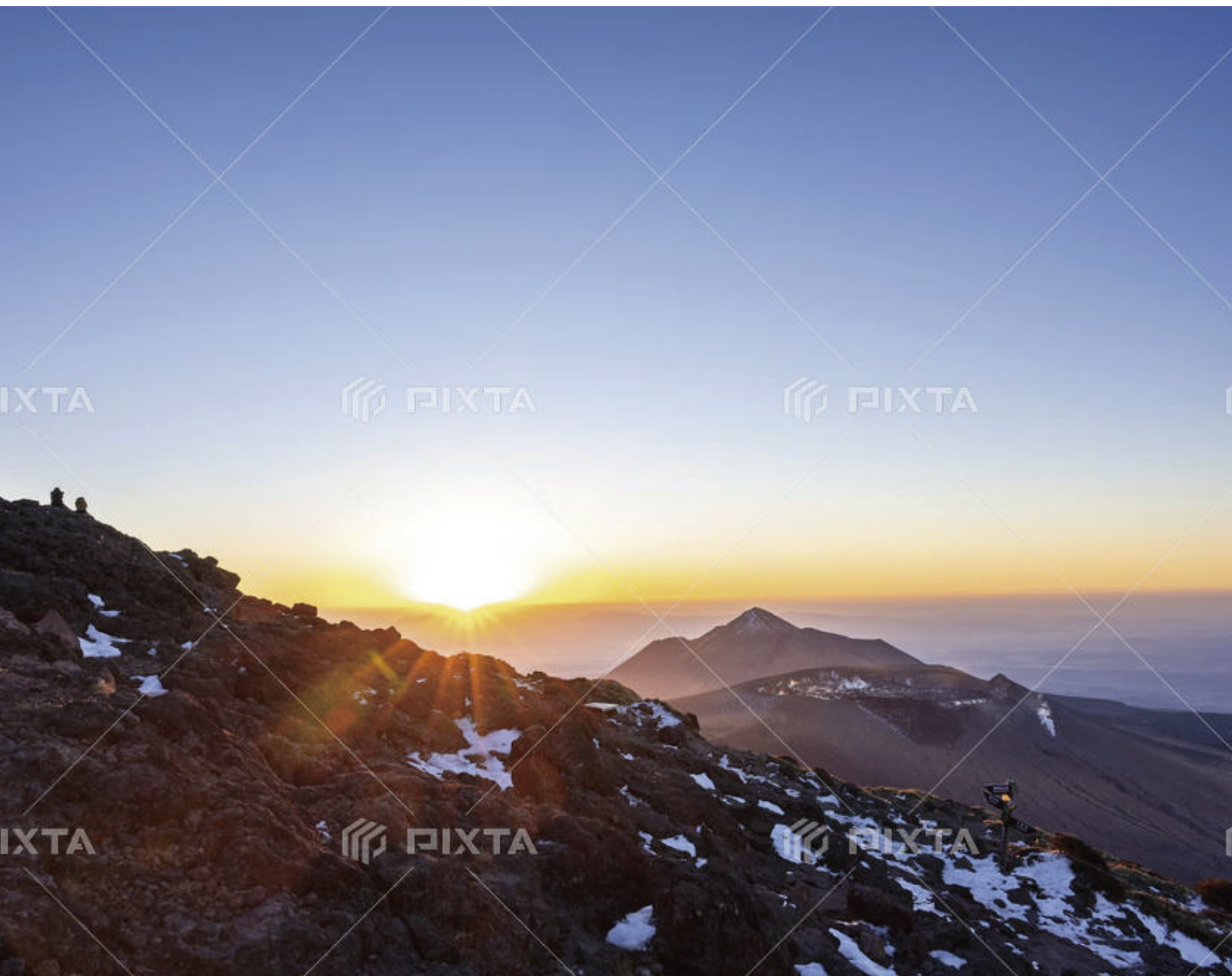




にじいろ通信

Rainbow color communication

笑顔あふれるまちなか病院 地域に寄り添い 安心・安全な医療を提供します。



霧島連山の朝

CONTENTS

- P2 院長あいさつ
- P3 地域医療懇談会開催
- P4・P5 各部門からの新年の抱負
- P6 子育て支援企画 ベッドコントロール室開設
- P7 地域医療連携（春田医院）
- P8 2025 年1 月 外来診療体制について



鹿児島医療生活協同組合
国分生協病院



院長 山下 義仁

明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。毎日多くの患者さまをご紹介いただき、また当院からのご紹介も数多くお引き受け頂き、誠にありがとうございました。去る11月には5年ぶりとなる地域医療懇談会を開催させて頂き、33もの医療機関にご出席いただきました。もともとは、私たち病院の職員と顔と顔が見える関係をつくるのが目的だったのですが、今回はそれにとどまらず、ご出席医療機関同士の関係を深める機会にもなったように思います。この地域での横の繋がりをさらに強めることに一役買うことができた事は、この上もない喜びでありましたし、私たち自身多くの励ましを頂きました。ありがとうございました。

2025年が始まりました。かつて団塊の世代が後期高齢者になる超高齢化社会への対応を指して「2025年問題」と言っていたその年を迎えました。政府の言う「2025年問題」の肝は、高齢者が増加し社会保障費が増えることへの対応が求められるとのことでしたが、その一つが昨年の診療報酬の改定でした。外科系がほとんどない当院には大きな打撃でした。帝国データバンクによると昨年1月から10月までの10か月間の医療機関の倒産件数は55件に上っており2020年以降最多となっています。地域医療懇談会でもご報告させて頂きましたが、アンケートにご回答いただいた31医療機関の内24医療機関が、資金繰りがやや厳しいと回答しています。人口12万3000人の霧島市の医療は中小の医療機関で成り立っています。その一つ一つが市民の健康や病氣療養のためにはなくてはならない存在です。

救急搬送件数は年々増加しており、その多くが高齢者です。これまで午前中の救急要請に応えられない状況がしばしばありましたが、これを克服ししっかりとお受けしたいと考えています。

コロナの影響や高齢者世帯の増加で在宅での医療を希望される方や高齢者施設を利用される方が増えてきています。これらの方々のご要望に訪問診療でお応えしたいと考えています。また、障害を持ったお子さんのご要望にもお応えできるかと思います。ご紹介のほど、よろしくお願い申し上げます。

専門性のさらなる向上が期待されます。お互い協力し合いながら、この地域の方々が安心して医療を受けられるよう本年もよろしくお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

第3回 国分生協病院 地域医療懇談会



第3回地域医療懇談会 開催

2024年11月13日、第3回地域医療懇談会が開催されました。5年ぶりの開催となった今回は、33医療機関から62名（医師24名、看護師13名、その他25名）、院内から21名の計83名のご参加をいただきました。当院の小坂元博揮医師による、「当院における訪問診療の紹介」から始まり、院長山下義仁医師からは「診療報酬改定における、財政措置の必要性」について講演を行いました。ご参加いただいた皆様と共に、地域医療を守る医療機関としての役割を再認識する貴重な時間となりました。ご参加いただいた医療機関の皆様からは、「この地域の柱として地域医療を支えて欲しい」という、当院に向けての熱いメッセージと期待の声を多くいただき、当院職員一同、今後の医療活動に対し真摯に向き合い、霧島市の医療を支える役割としての立場を改めて考える機会となりました。

当院は、「顔の見える関係づくり」を目指し今回のような企画、運営に取り組んでおります。日々の診療が安全に行えるのも、地域の各医療機関の皆様のご協力があるからこそのものでありますので、今後とも当院との医療連携、ご支援の程よろしくお願いいたします。



会場の様子



当院の医師紹介



乾杯の挨拶

各部門からの新年の抱負

〈医局〉

「経済」優先、格差是認の政治が進められる中で、医療や社会保障の負担は国を危うくすると軽んじられ、医師はこれから余る時代だと言われます。しかし、地方の中小病院では、医師を初め、働き手不足は明らかで、医療従事者の努力で、身に余る課題にあたっている状況が続いています。現在の課題を解決しながら、次の世代の働き手を創り、医療を継続できるよう、命を軽んじる政治を変えていく活動にも取り組んでいきます。

〈看護部〉

看護部理念：その人らしさに寄り添い、責任ある質の高いケアを実践します。

新型コロナウイルス感染症の経験は、私たちの看護のあり方を見直すきっかけになりました。人とのつながりから患者様、利用者様が安心して地域で暮らせるように、多職種連携で支えることが大事です。地域の皆様とも連携し、よりよい医療・看護・介護が提供できるよう取り組んでまいります。

〈事務部〉

事務部は若い職員が多く活気あふれる職場です。自己研鑽に努め、新たな挑戦と前進の実りある年となるよう医療事務としての「質」を追求します。また、患者様が安心して受診していただけるよう接遇向上に取り組み、病院窓口として医療機関や施設等、地域の方々から信頼される病院づくりを目指します。

〈リハビリ部〉

リハビリテーション部では入院・外来・通所リハビリテーションと、急性期から在宅期までのリハビリテーションを提供しています。患者ファーストの視点を大切にし、他部門・多職種との連携を図り、リハビリテーション部全員で協力しながら、安心・安全なリハビリテーションの提供に努めて参ります。また、地域の人々の健康づくりに少しでも貢献し、リハビリテーションの専門職として力を発揮できるように取り組んでいきます。

〈放射線部〉

2025年にはCT装置の更新を控えています。画質・描出能の向上はもとより新たに心筋梗塞や線維化の領域評価を行うことができればと考えています。また、被ばく低減・造影剤減量に積極的に取り組み、患者・組合員に安心安全な検査をアピールしていきます。「シン・CT」のパフォーマンスを十分発揮できるよう放射線部一同研鑽に努めます。

〈検査部〉

「医療福祉生協のいのちの章典」で書かれている「憲法 13 条・幸福追求権」の大切さを、日々の検査活動で学んでいます。憲法 13 条が形骸化されれば、政治や暮らしが悪化してストレスが溜まりやすい世の中になる。逆に意識することで、組織や社会を自分の事として捉え、ひとと人のつながりの中で明るいまちづくりがすすむ。これからも「医療福祉生協のいのちの章典」とともに、いのち輝く社会をつくれるよう検査部一同取り組んでいきます。

〈食養部〉

ひとりひとりが主体性をもって行動し、活発な意見のやりとりができる人材育成とお互いを尊重しあえる職場づくりに努めていきたいと思います。

また、各自がスキルアップして、多職種連携で患者様の目標にそった栄養管理を行えるように取り組んでいきます。

〈薬剤部〉

患者さんの立場に立ち、「民主的なチーム医療」と「地域に根ざした医療」をモットーに、安心・安全で適正な薬物療法をめざし、知識・技術の向上や情報共有に取り組みます。また、退院後の生活を見据えたサポートができるよう、地域の保険薬局との連携をすすめていきます。

子育て支援企画



2024年10月5日、生協強化月間中の企画として、国分生協病院小児科外来にて、子育て支援企画「発達特性と自己肯定感について」を開催しました。本企画は、「組合員活動への新しい参加者を増やす取り組み」の一環として、子育て世代に医療生協の活動を広く知っていただくことを目的に実施しました。

大人16名、子ども6名の計22名にご参加いただき、国分生協病院の作業療法士・発達障害支援スーパーバイザー武和宏氏と、看護師・認定子育てハッピーアドバイザー外菌弘美氏による講演を行いました。

講演では、自己肯定感の重要性や発達特性への理解が子育てにどう活かせるかについて、わかりやすく丁寧に解説され、参加者は真剣な面持ちで耳を傾け、「しつけが学びにつながるという視点が新鮮だった」「自己肯定感を高める子育てを意識したい」など、具体的な気づきを得られたとの感想が寄せられました。その中でも特に、愛着形成やコグニティブトレーニングについての説明は参加者から関心を集める内容となりました。

今回の企画では、親への支援を通じて子どもたちを支えていくという家族支援の重要性を再確認する機会となり、当院にとっても、地域と協力しながら子育て支援を推進していく意義を実感することができました。

今後も家族支援への視点を広くもち、医療の観点からサポートできるよう、引き続き様々な企画、運営に取り組んでいきたいと思います。



ベッドコントロール室開設

当院は、救急患者を受け入れる急性期病院として、地域貢献を目指しています。一方で、入院が必要な患者がベッド状況によって、受け入れができず、地域の医療機関の皆様にご迷惑をおかけすることもありました。そこで、病床状況、1週間の入退院予定を把握かつ調整を行い、入院が必要な患者様が確実に入院できるよう、2024年9月1日から「ベッドコントロール室」を設置しました。



1. 目的

- 地域のまちなか病院として、入院が必要な患者が円滑に入院できるベッドコントロールを行う。
- ベッドコントロール室職員、病棟看護師、地域連携室職員が連携を図り、同室に入退院情報（病状説明、カンファレンス開催等）を集約し、各職種が必要なカンファレンスに適宜入ことで早期の退院調整につなげる。

2. 担当職員

診療部長、病棟主任医長、ベッド管理師長、退院支援看護師長、地域連携室責任者

3. 業務内容

- 入退院日の選定について
1週間の入退院情報、病状説明、カンファレンス開催予定の確認を行い、入院候補者の入院日選定、退院可能な患者の退院日選定を行う。
- 病状説明、カンファレンス参加について
上記情報を同室に集約し、退院支援看護師、地域連携室職員が病状説明、カンファレンスに参加し、退院支援の早期介入が必要な患者の支援に努める。

4. 地域の医療機関、介護施設の皆様へ

「ベッドコントロール室」が適した入退院管理を行うことで、地域の期待に応えられることにつながると考えています。今後も、当院は多くのご紹介患者を受け入れできるように努めてまいりますので、よろしくお願い致します。



地域医療連携 ～地域の先生方より～

春田医院



春田 剛 院長

1. 当院の紹介

この度は国分生協病院の広報誌「にじいろ通信」への投稿依頼をいただきありがとうございます。父が高齢となり、2024年1月より父に代わり診療をさせていただいています。

牧園町は高齢化が著しく、またお一人暮らしの方が多い地域です。基礎疾患を持たれている方は、ご自身の健康に不安を持たれていることが多く、患者さまに少しでも寄り添った診療ができるよう、地域のかかりつけ医として頑張っていきたいと思っています。

診療内容は高血圧症、脂質異常症、糖尿病などの内科一般の診療を行っており、希望がある患者さまには上部消化管内視鏡検査や腹部超音波検査などの検査を行っています。また月に1回ずつですが、非常勤で循環器内科、糖尿病の医師にお手伝いをいただいています。

2. 国分生協病院へのお礼

肺炎、心不全、尿路感染症等の入院が必要な方に対して、これまで国分生協病院様には多くの患者さまの入院を受け入れていただいています。遅い時間帯や休日、またベッド状況の厳しい中にも、無理して受け入れていただいたことも多数ありました。その節は大変お世話になりました。患者さまも退院した後、先生やスタッフの皆様に変感謝されていました。

また当院から循環器疾患の患者さまの診療や検査をお願いすることが多く、いつも快く受け入れていただいています。その都度、適切な診断、治療を行っていただき、今後の治療に対するアドバイスをいただいています。

これからも国分生協病院様には霧島地域の基幹病院として頑張っていきたいと思います。今後も無理なお願いをすることがあると思いますが、その際は何卒よろしくお願い申し上げます。



春田医院の外観

外来診療体制についてのお知らせ

			月	火	水	木	金	土
午前	一般内科 (8:45~11:00)		吉 見	吉 見	長 谷	山 下	吉 見	救急対応 急患のみ (紹介受入可) ※ご紹介の方は、対応させていただきますので、ご連絡下さい。
	専門 外来 (8:45~11:00)	循 環 器	玄	中野(第1・3) 川嶋(第2・4)	吉 見	吉 見	川 嶋	
		呼 吸 器	山 下		檜田祐一 (第2・3・5)		檜田祐一 (第2・3・5)	
		消化器・肝臓		小坂元				
		腎・膠原病	前 村			前 村 (第2・3)		
		神経内科				大 山		
		内 分 泌			檜田久枝 (第2・3・5)	藤 崎	檜田久枝 (第2・3・5)	
	外 科 (9:30~12:00)				税 所		税 所	
午後	小児科 (9:00~12:00)		玉 江	玉江(一般) 酒井(第2・4予約)	玉 江	森 田	交 替	玉江 (第3・予約)
	内 科	14:00~17:00	交 替	交 替		交 替	交 替	
		予約のみ 15:00~17:00		山 下 泊		大 山 吉 藤 見 崎	山 下 檜田久枝 (第2・3・5)	
		17:00~18:30	交 替	交 替		交 替	交 替	
	小 児 科	予約のみ 予防接種/健診 14:00~16:00		(14:00~16:00) 玉 江			交 替	
		予約のみ 14:00~17:30		(14:00~17:30) 酒 井 (第2・4)		(14:00~16:30) 森 田		

※学会出張等の都合により変更になる場合があります。詳しくはお電話にてご確認ください。

※平日の専門外来への紹介は予約制となっていますので、事前にお電話をお願いします。

※急患の方は、従来通り電話（0995-45-4806）にてご相談下さい。



鹿児島医療生活協同組合
国分生協病院

〒899-4332 鹿児島県霧島市国分中央3丁目38-14
電話 (0995) 45-4806 FAX (0995) 45-4938
<http://kokubu-seikyo.jp>